

第 二 部 記 録

大学教育研究フォーラム

第17回大学教育研究フォーラム シンポジウム

『単位制度から見る教授学習・カリキュラム』

日 時 2011年3月17日（木）13：00～

場 所 京都大学百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール

開 会 の 辞

大 塚 雄 作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

（大塚）大変お待たせいたしました。第17回大学教育研究フォーラム・シンポジウムを始めさせていただきます。今回は、直前に、東日本大震災が起りまして、関東の方で行われる催しは学会なども含めて続々中止という決断がなされているようです。関東の方は、停電の影響もあり、交通機関も思うに任せず、大変な状況というわけですが、関西におります私どもが、この災害にどのようなことで支援できるのかということを考えましたときに、それはわれわれに与えられていることを一つ一つこなしていくことだろう、そしてまた、それしかできることはないということに至りました。関東以北の方々は足が調達できずに今日は参加できないという方も多いと思いますけれども、今までに増して一層元気にこのフォーラムを開催することで、参加された方々がそれぞれの場で大学を活気づかせていくことができればという思いで、今日このように開催に踏み切らせていただきました。ただ、さすがに、ホームページなどでもご案内いたしましたように、いつもでしたらこのシンポジウムが終わった後に情報交換会を開催させていただいておりましたが、今回は自粛させていただきます。大学教育の活性化に向けて、学術的な内容面の部分で頑張っていこうと思います。

そんな中、正直、どのくらいの参加者の方にお集まりいただけるのか、大変心配しておりましたけれども、想像以上に多くの方にお集まりいただきまして本当に感謝の言葉もありません。どうもありがとうございます。ただ、恐らくこれだけの方がお集まりになっていますと、ご家族、ご親戚、ご関係の方々が被災された方も多かろうと思います。また、直接被災されて、今日ここに参加の思いがありながら、それを果たせない方のことも覚えておきたいと思います。そのような思いを込めまして、全体シンポジウムを始めるに当たり、黙祷を捧げたいと思います。

3月11日に発生しました東北地方・太平洋沖地震の被災者の方々に對しまして心よりお見舞い申し上げますとともに、多くの犠牲者に対し、黙祷によりまして哀悼の意を表したいと思います。誠に恐縮ですが、ご起立をお願いいたします。

それでは、1分ほど黙祷したいと思います。黙祷。

—黙祷—

ありがとうございます。ご着席ください。

今、教育担当の淡路敏之理事が駆けつけてくださいました。プログラムには松本紘総長とありますけれども、このような状況にありまして、総長公務多忙ということで、やはり大変お忙しい中を代理の挨拶をお願いいたしました。それでは、よろしくお願いいたします。